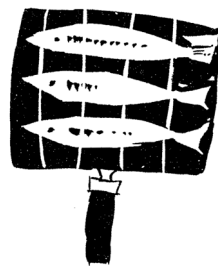


農業

平成25年10月号
会誌 No. 1577



目次

巻頭言

しあわせ

幸福の日々よつづけ……………清塚 利夫 3

論壇

農学部の新設計画に想う……………田中 耕司 4

農業懇話会

平成24年度食料・農業・農村白書……………折原 直 6

東日本大震災からの復興－復興への歩み－ 八百屋市男

食料の安定供給の確保に向けた取り組み

農業の持続的な発展に向けた取り組み

地域資源を活かした農村の復興・活性化

質疑応答

表彰農家訪問

農地集積による大規模水稻・大豆作経営の展開……………平岩 進 19

－富山県砺波市に石崎善正さんを訪ねて－

研究の最前線

- 気候温暖化に伴う水稻栽培の新しい展開……………森田 敏 27
- －高温登熟障害の発生のしくみと対策－
- 高温登熟障害研究の過去と現在
- 温暖化による登熟障害のしくみ
- 高温登熟障害対策の考え方

農業・農村の現場から

- 被災地沿岸部における大規模施設園芸……………岩佐 大輝 39

世界の農業は今

- ベトナム・メコンデルタの農村事情……………泉 太郎 45

統計情報…………… 50

平成25年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況

農政情報…………… 51

大日本農会だより…………… 52

編集部から…………… 52

表紙写真説明

山里の秋（高知県長岡郡大豊町豊永） おとよちょう

四国は、標高がそれほどないが、急峻な山々が多く、その崖に柱を立ててテラスをつくり、その上に家屋を作るところが多くみられる。その四国山地の中央部に位置する高知県長岡郡大豊町は、徳島県三好市、愛媛県四国中央市に接する高知県東北端、高知市から約40Kmのところにある。人口は、平成25年9月現在、4,540人、65歳以上の方が2,420人、高齢化率53.3%の町である。

急峻な山間で少しでも平らな所は米を作る棚田となり、水稻の作付面積は、132haである。最近は飼料作物の栽培も多くなってきた。平地に比べて平均気温が低いので、害虫が少なく合鴨米（化学肥料不使用）栽培も盛んにおこなわれており、特産品「大豊の棚田米と合鴨米」として広く売られている。特産品と言えば、大豊町は「碁石茶」が現在でもつくられている。碁石茶は、日本で唯一の完全発酵茶で江戸時代からの秘伝の製法でつくられてきた。東南アジアや中国雲南省・四川省・湖南省でつくられている黒茶に似ているが、発酵に使われる乳酸菌は、全く別なものだと言われている。

（写真提供：一般社団法人地域環境資源センター）